学校法人 青森山田学園

青森大学

青森市幸畑2－3－1
☎017－738－2001

理事長
岡島　成行氏

―2021年度について。

「青森山田高校サッカー部が全国選手権で優勝し、インターハイと高円宮杯U―18プレミアリーグ東地区との3冠を達成しました。選手権は過去6年で優勝3回、準優勝2回で〝最強校〟と呼ばれるまでになりました。県民の皆さまにも大変喜ばれ、非常にうれしく思っています」

むつキャンパス来月開校

青森大学むつキャンパス

「経営は21年度も順調で、3年連続の黒字決算を見込んでおり利益に相当する残高も年々増えています。教職員の努力もあり、経営安定まであと一歩です」

―今後の展望を。

「むつキャンパスが4月にいよいよ開校します。協定締結からわずか1年でしたが、むつ市の強い熱意のおかげで急ピッチで準備が進み、開校までこぎ着けることができました。初年度の入学生は16、17人の見込みです。4月2日の入学式では、藤原誠・前文部科学事務次官をお招きして記念講演会を開き、新入生への激励やむつ市への期待をお話しいただきます」

「学生は青森市、むつ市、東京にあるどのキャンパスでも学べます。県内出身者には、東京キャンパスで学びながら都会でさまざまな経験をしてもらい、地元で役立ててほしいです。早くコロナが落ち着き、再び多くの学生が東京キャンパスに行ける状況になるよう願っております」

「青森山田高校はスポーツが有名ですが、今後の課題は進学強化です。地方では進学率や合格実績などで公立優位のイメージが根強いですが、私立でも勉強はできると示したいです」

青森公立大学

青森市合子沢山崎153－4
☎017－764－1555

学　長
香取　薫氏

―青森公立大学の教育とは。

「開学以来GPA制度を堅持し、卒業要件、授業料減免、成績優秀表彰や退学勧告に利用しつつ『教育に責任を持ち、社会に対して教育の質を保証する』ことを実現しています。2018年には、文部科学省の調査研究において、本学の厳格な成績評価システムが、国内で特に成果を挙げている7大学の一つとして紹介されました」

専門性もった教養人育成

青森公立大学キャンパス

「教育目的には『経営経済の専門性をもった教養人の育成』を掲げています。経営経済に関する専門的な知識のみではなく、グローバルな視野とコモン・センスの涵養も重要であり、広く人間社会に関わる豊かな市民的教養と特殊領域の専門知識を兼備した人間こそが、21世紀に求められる人材です」

「コロナ禍でも、授業開始時期前倒しや教室間オンライン授業、授業料等の徴収猶予・分割納入などさまざまな対策を取り、安心して学べる環境を構築しています。オンライン面接等に的確に対応して就職指導を進め、今春の卒業生も例年並みの就職率を確保できる見込みです」

―今後の展望を。

「21年度からの第3期中期計画に基づき、引き続き大学改革に積極的に取り組みながら、特に教育・研究の改善や志願者の確保、就職率の向上、地域貢献・広域連携の充実を図り、『青森圏域連携中枢都市圏』の中心市の都市機能の一つとして、存在意義を一層高めていきます」

公立大学法人

青森県立保健大学

青森市浜館間瀬58－1
☎017－765－2000

学長・理事長
吉池　信男氏

―大学の紹介を。

「『人生100年時代』をどのように生きるのか？　という大変重大な問題であり、さらに国や地域を『持続可能な社会』とすることは一人一人にとって大変重とを皆で真剣に考える必要があります。その時のキーワードが、地域に暮らす人々が互いに協力し、生活や健康を支え合う仕組み、すなわち青森県が掲げる新しい『地域共生社会』です。本学では、看護、理学療法、社会福祉、栄養の四つの専門職育成を柱にしながら、これらの多職種連携により、まさに今求められている『保健・医療・福祉包括ケアシステム』に必要な人材を、学部4年間および大学院教育を通じて育成し、地域に輩出しています。また、地域住民が主体となって活動する『ヘルスプロモーション』も、本学の重点的な取り組みとなっています」

地域健康創造人材の育成

ヒューマンケアを育むキャンパス

―今後の展望は。

「これまで、青森県では『短命県返上』といったマイナスの部分を克服するといったスローガンが多かったように思われますが、本学では、青森という自然が豊かな魅力的な土地で、『健康を守る』を超えて、100年先を見据えた『生活や健康の創造』を担えるような人材の育成を目指しています。キャンパスには、感性豊かで、心優しく、向学心のある若者が集い、日々学んでいます。さらに、未来に向かって飛翔できるように、多くの皆さまとの交流や連携を大切にしながら、教育や研究を進めていきたいと思っています」

国立大学法人

弘前大学

弘前市文京町1
☎0172－36－2111

学　長
福田　眞作氏

―2021年度について。

「国立大学法人評価委員会から第3期中期目標・中期計画期間4年目終了時の業務実績評価を受け、『岩木健康増進プロジェクト健診』の成果や目標の2倍超となる地域志向科目の開設数、17年度から維持する県内就職希望率50％以上などが高評価されました。こうした評価から4月からの第4期でも、文部科学省よりミッション加速化実現経費（法人運営活性化支援分）が配分されることになりました」

選ばれる大学へ改革次々

弘前大学文京町キャンパス

「コロナ禍で困窮する学生への支援を続け、寄付を原資とした百円昼食・夕食の提供や学内アルバイト創出事業などに取り組みました。広報改革により20年度の公式サイトアクセス数が15年度の2・58倍となり、21年度は北日本主要駅のデジタルサイネージ活用などを進めた結果、志願者数回復につながりました。このほか若手教員の採用率向上にも取り組み21年度の新規採用者の約7割を占めました」

―今後の展望を。

「地域の強みを生かしながら、再生可能エネルギーや被ばく医療、オンライン診療、食など特色のある研究を進め、地域活性化やイノベーションにつなげるのが本学の使命です。弘大COIをさらに強化するほか、4月には理工学部に『宇宙物理学研究センター』を、秋には高校生対象の地域探究論文コンテスト『津軽賞』を実施します。少子化時代でも受験生を確保できる入試改革や国際化、学生・教員の満足度向上にも尽力し、『選ばれる大学』を目指します」

2022新年度　私の展望 TOP INTERVIEW　青森県主要団体・企業トップインタビュー
「Web東奥」でも本特集がご覧いただけます。Web東奥　私の展望　検索
https://www.toonippo.co.jp/common/too/tenbo/2022/index2022.html

みちのくリース㈱

青森市橋本1－4－10（みちのく国道ビル7階）
☎017－776－2355

代表取締役社長
小笠原　金一氏

―事業内容や特徴は。

「当社は、みちのく銀行グループの関連会社として、『地域社会』の二つを経営方針とする、密着型リース会社』および『法令遵守と環境配慮のリース会社』の二つを経営方針とする、総合リース会社です」

ニーズに応え地域貢献

地域社会のパートナーとして

「現代のような変化の激しい時代でも、お客さまのニーズに沿い地場産業や地域経済の発展に資するような、さまざまな商品（リース、自動車リース、割賦販売等）を提案し、設備投資のお手伝いをしております。主な取扱物件は、自動車、土木建設機械、医療用機器、情報通信・事務機器、商業産業設備など多種多様です。青森市の本店営業部（むつ駐在含む）、弘前支店、八戸支店、函館支店の4拠点にて営業展開しております」

―新たな時代への抱負は。

「新型コロナウイルス感染症の影響で仕事や生活様式が大きく変わり、経済も大きな打撃を受け、変革の必要性が問われております。さらに、SDGs（持続可能な開発目標）にも掲げられている脱炭素社会に対応した製品・活動も加速度的な進化が想定されます。当社は変革・進化に伴う、お客さまのニーズを満たす物件に対し、安心・満足・信頼を得られるご提案を地道に迅速に対応いたします」

「みちのく銀行のネットワークを活用したビジネスマッチング、JA三井リースをはじめ大手リース会社のノウハウを導入し、『地域のために』をモットーに今後も事業展開していきますので、引き続きご愛顧のほどよろしくお願いいたします」

あおぎんリース㈱

青森市古川1－16－16（青銀古川ビル5階）
☎017－723－1665

代表取締役社長
石橋　理氏

―事業内容は。

「当社は、青森銀行グループの関連会社として1985年10月設立以来『リース業務を通じて地域企業の発展に寄与する』という経営理念の下、経営のお役に立つリースサービスを提供してきました。現在、本社（青森市）および弘前、八戸、十和田各支店の4店体制で、県内全域を主な営業エリアとして活動を展開しています。リース取扱物件はパソコンなどの事務機器や営業用車両などがありますが、最近は経営の効率化や働きやすい職場づくりに向けたシステム投資や、新たな分野への投資なども増えています。当社はこれらの時代の変化をとらえ、当社の拠点、また青森銀行を通じてお客さまのニーズをお聞きし、リースをご提案しています」

時代の変化をとらえて

あおぎんリースのテレビCM

―今後の展望を。

「リース業の特性は『モノを売る』のではなく『時代に適したモノ・サービスが利用できる』環境を提供することです。コロナ禍により生活様式、ビジネススタイルも変化しています。一方、本県においても業種や地域に関らず、デジタル変革への対応が求められるでしょう。また、サステナビリティ（持続可能性）の観点からも、リース終了後のリユースなど私たちの業界の役割も大きくなると思います。当社はこれらのニーズを的確にとらえ、今後は新たに設立されるプロクレアホールディングスの一員として、青森銀行およびグループ他社との連携を強化し、皆さまのお役に立つリース会社を目指していきます」

学校法人三和会

青森歯科医療専門学校

青森市三内稲元122－2
☎017－782－3040

理事長
今井　将貴氏

―学校の紹介を。

「本校は1970（昭和45）年に青森歯科技工士専門学校として開設し、76年に専修学校の認可が下り、2015（平成27）年に青森歯科衛生士専門学校と統合いたしました。歯科衛生士科は2010年4月から3年制となり、今年が創立50年で国家唯一の専門校で、歯科医療のスペシャリスト育成のため、カリキュラムの充実に力を入れており、医療系で唯一、2年間での資格取得を目指しています」

口の健康守る即戦力育成

青森歯科医療専門学校の校舎

―教育理念について。

「本校の教育理念は『陶鋳研磨』で、人の痛みが分かる優しい人材の育成に力を入れています。学校内では『明るく、楽しい、学生ファースト』を目標に掲げ、生徒がどんな時でも通いたいと思える学校づくりや、職員一同も明るく楽しい環境になるよう工夫しています」

―今後の展望について。

「2000年過ぎまで全国で72校あった歯科技工士科は21年4月には47校に減り、19年の入学者数は最盛期の3分の1以下となっています。また、歯科医療従事者の高齢化が進んでおり若い力が期待されています。最近では歯科医院・歯科技工所が将来を考えて作業の自動化・効率化を図り、人材の募集に力を入れております。社会ニーズは歯科衛生士・歯科技工士ともに一層高まっており、本校では即戦力となる人材の輩出を加速していきます」

厚生労働省所管

東北能開大青森校

五所川原市飯詰狐野171－2
☎0173－37－3201

校　長
瀧原　祥夫氏

―人材育成の方針について。

「特にものづくり産業界を支える人財は今以上に不可欠と思っています。当校は工科系大学校として、ものづくり産業界で活躍する高度な知識と専門的な技術、技術・技能を兼ね備えた実践技術者を育成しています。機械技術、電気・電子、電子情報通信分野の3科（2年制）があり、卒業生の多くは製造業、情報通信業等の分野で中核的な技術リーダーとして活躍しています」

地域産業の担い手育成

東北能開大青森校

―教育訓練システムは。

「感染症の密リスクに有効な少人数制のきめ細かな指導体制の下、学科（座学）に加えて実験・実習を重視した実学融合の実践的な教育訓練システムを構築しています。機器や設備は生産現場と同等のものを配置し、充実した環境を整備しています。ステップアップしたい学生は、全国10地域に設置の職業能力開発大学校の『応用コース』（大学3、4年相当）への進学（推薦制度あり）も可能です」

―今後の取り組みについて。

「デジタルテクノロジーの普及は、新たな価値を創出することで社会の課題や困難の克服が期待されており、当校でもカリキュラム上の基盤技術にその対応技術を組み込みながら教育訓練を進めていきます。また、産学官連携に取り組みつつ、工業高校等の生徒・教員を対象とした課題研究の高大連携等、地域ものづくり企業の人材育成をサポート、併せて地域企業が抱える諸課題の解決に向けた共同研究等による技術支援も展開できればと考えています」